



With コロナ

新型コロナウイルス感染症 感染防止対策について今一度見直しましょう

市民の皆様へ

滋賀県内では、7月に入ってから新型コロナウイルスの感染が拡大しており、第2波が懸念されております。また、感染経路が不明な新規陽性者が確認されたことなどから、滋賀県は、「コロナとのつきあい方滋賀プラン」におけるステージ判断を「注意ステージ」から「警戒ステージ」へと引き上げるとともに、皆様に対して協力の要請を行いました。湖南市においても、この要請に基づき感染防止対策の徹底などをさせていただきますよう、よろしく申し上げます。

湖南市長 谷畑 英吾

皆さんに行ってほしいこと

- 1 こまめな手洗い、マスクの着用、3密（密閉空間・密集場所・密接場面）を避けるなどの基本的な感染予防対策の徹底

※気温・湿度の高い中でのマスク着用は熱中症に注意し、屋外で人と十分な距離を確保できる場合にはマスクをはずすなどの工夫をしましょう。



- 3 感染拡大防止と自分や大切な人を守るためにアプリをダウンロードして活用しましょう。



「もしサボ滋賀」

「COCOA」



- 2 都市部を中心とした感染者が多数確認されている地域への外出や、感染対策が十分にとられていない施設の利用は慎重に検討しましょう



本格的な夏を迎える前に、令和2年7月豪雨が九州地方を中心として全国的に被害を生じさせました。亡くなられた方のご冥福をお祈りし、被災された方へのお見舞いと被災地の一日も早い復興をお祈りします。

多発する線状降水帯による想定外の大雨が原因で、災害リスクの高い土地の高齢者施設などが洪水被害を受け、多くの犠牲者を生じました。災害ハザードマップ通りの被災地であることから、改めて気を引き締め、安全な地域づくりに市民の皆さんとともに取り組んでまいります。

公立甲賀病院からはいち早く災害派遣医療チームDMATを現地に投入しました。3年前の全国市長会副会長のとときに構築した市長間ネットワークで現地への支援も始まっていますが、厄介なのは新型コロナウイルスです。感染拡大を防ぐため支援の広域移動に慎重になれば、逆に支援が遅れるというジレンマを抱えながらの復旧活動となります。

新型コロナウイルスは再び感染者

谷畑市長の
まちづくり
最前線レポート
No.162

が増えてきています。都市部の夜の街が中心だと言われてきましたが、地方にも波及し、職場や家庭、学校などでの感染事例も出てきました。滋賀県でも感染者が増えていきますので、予防には十分努めてください。

市議会7月臨時会にも新型コロナウイルス感染症対策の予算案を提出しました。さらに切れ目ない対応に努めてまいります。

先月14、15日には全国市長会の各会議に出席しましたが、副委員長を預かる防災対策特別委員会だけでなく、福祉教育担当の社会文教委員会、理事・評議員合同会議でも新型コロナウイルス対策一色で、国の中央省庁もコロナ対策に追われていることがよくわかりました。

戦後、わが国が接ぎ木のように築いてきた複雑な社会の制度が、アフターコロナの社会に向かって足かせになっていることは確かです。市民生活と地域経済を大切にする新しい社会づくりを、全国の市長や政府の有志とともに進めて行く必要があります。

17日には湖南市の「さりげない支えあいのまちづくり」の提案が政府から評価され、「SDGs 未来都市」に選定されました。湖南市の持続可能な地域づくりが全国の最先端であると認められたものです。市民の皆さんとアフターコロナ社会づくりをさらに進めてまいります。